

令和6年（2024年）能登半島地震による土砂災害

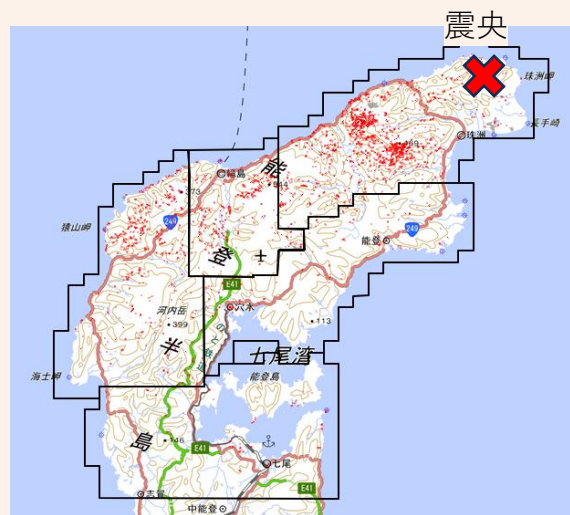


地震災害の概要

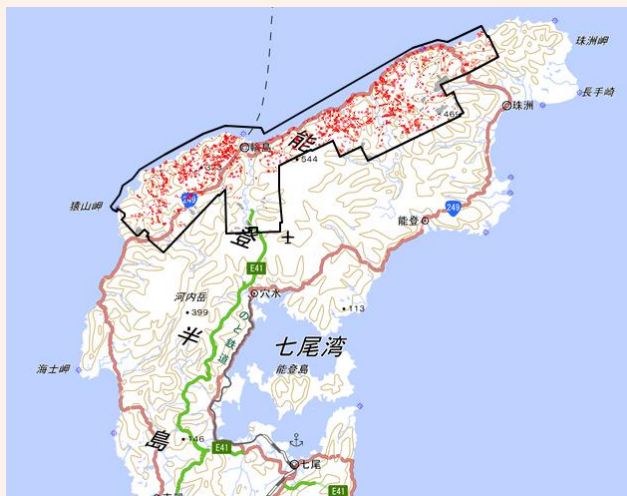
地震は2024年1月1日発生。能登半島を震源とし、マグニチュード7.6、最大震度7。地震動による建物の損壊や火災、がけ崩れ、液状化、津波による被害が顕著でした。半島のため交通路が限られており、それが通行できなくなって大きな影響があったということも問題となりました。

2024年9月には、豪雨により能登半島で河川の氾濫や土砂災害が多発し、1月の地震の復興途上で再び被災するダブルパンチとなってしまいました。

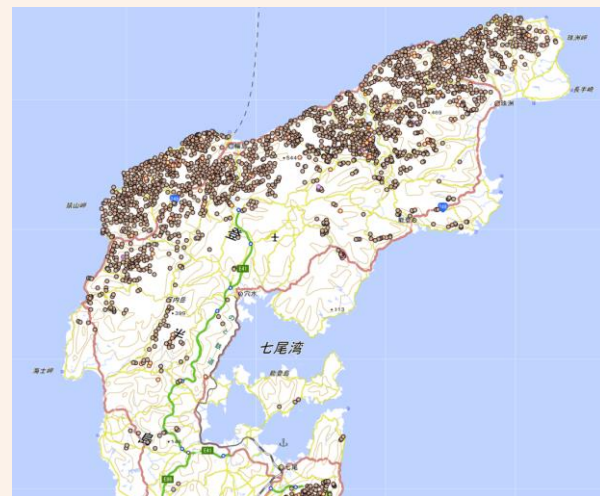
どんな土砂災害
がどこで発生し
たのだろうか。



（地理院地図：斜面崩壊・堆積分布図）



（地理院地図：斜面崩壊・土石流・堆積分布データ）
（黒枠は調査範囲）



（防災科学技術研究所データ）

能登半島地震によるがけ崩れの発生箇所

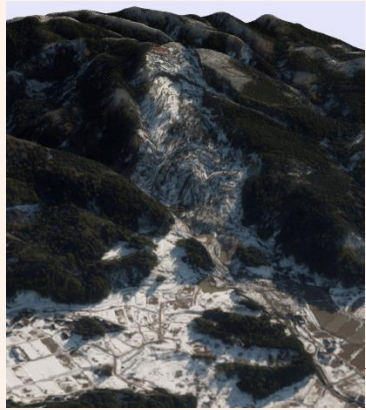
2024年9月の豪雨によるがけ崩れ・土石流の発生箇所

地理院地図で見る地すべり地形の分布

能登半島の地形と土砂災害

能登半島北岸地域のさまざまな土砂災害

山地が海岸まで迫る能登半島北岸地域では、2024年1月の能登半島地震や9月の豪雨によるものだけでなく、2007年3月の能登半島地震などでもがけ崩れが多数発生しています。また、過去の地すべりで形成された地すべり地形が密集する地域でもあります。



(地理院地図による3D表現)

2024年1月の地震による 深層崩壊の一つ

崩落した土砂は下部で土石流となりました。



(2024年12月撮影の現地写真)



(地理院地図)



(地理院地図による3D表現)

2024年1月の地震による多数の 表層崩壊



(地理院地図)

2024年9月の豪雨によるがけ 崩れの発生箇所の写真

多数の表層崩壊が見られます。



(石川県ホームページ)

地すべりと棚田

地すべりで移動した土塊のところは周囲より緩傾斜となり、棚田として利用されることがあります。輪島市の「白米千枚田」は、そのような棚田の一つで、国の名勝であり世界農業遺産にも指定されています。令和6年能登半島地震では、大きな土砂移動は発生しませんでしたでしたが、地割れが生じるなどの被害がありました。